

3年制臨床検査技師養成課程での学術活動

-7年間の経験から-

◎小笠原 篤¹⁾、永田 美智¹⁾、畑本 大介¹⁾
静岡医療科学専門大学校¹⁾

【はじめに】3年制と4年制のカリキュラムの大きな違いとして、卒業研究の有無がある。本学科は2015年に新設された3年制の専門学校である。本学は卒業研究をカリキュラムとしては行っていないものの、有志で学術活動に取り組んでいるのが特徴の1つにもなっている。今年の春には7期生が卒業し、学会発表等を経験した卒業生は16名となった。今回、学術活動を行なった学生に対し、その経験がその後のモチベーションやキャリア形成にどの程度影響したのかを調査するため、アンケート調査を行なった。

【対象と方法】アンケート調査は、在学中に学会発表を経験した本学科の卒業生13名に行い、12名から回答を得た。調査内容は、①学会発表にチャレンジした理由(複数回答可)、②チャレンジしてよかったか、③学習意欲は変化したか、④今に活きているか、⑤在校生に学会発表等にチャレンジして欲しいかを、調査した。②～⑤に関しては、ネット・プロモーター・スコア(NPS)に従い10から0の11段階で回答を得た。11段階で10,9を選んだ方を推奨者、8,7を選んだ方を中立者、6から0を選んだ方を批判者として、

それぞれの割合を算出した。【結果】①：元々興味があった、就職活動等に役立つと思った、という結果が1番多かった(7人)。②：批判者は8.3%(1人)だった。③～⑤：批判者は16.7%(2人)だった。各問において、その結果と回答した理由には、学会発表において前向きな意見ばかりではなく、後向きな意見も散見された。

【考察】調査結果から、学会発表等の学術活動を行うことは、その後の学習意欲の向上にも繋がることが示唆された。一方で、この経験がトラウマとなり得ることも明らかとなった。今の業務に生きていないと感じる理由としては、現在の業務内容(自身が希望していなかった部署での勤務をしているなど)や、対象が若手職員であることなどが要因の1つであると考えられた。

【結語】リサーチマインドを育み、卒後も高いモチベーションで働くことができる学生を育成するためにも、学生の心理的安全性を確保し、十分な指導体制を整えた上で、積極的に学術活動を行っていくことが重要である。
連絡先：053-585-1551